

「俳句を味わう」発展学習シート③  
名句を解説&紹介しよう

三年 組 番 氏名

ワーク 自分が評価する(気に入った)名句を一句、中学生に解説&紹介しよう。

紹介する俳句

Blank area for students to write their selected haiku and evaluation.

紹介する俳句 古池や蛙飛び込む水の音

この句は、江戸時代の有名な俳人(俳句を詠む人)、松尾芭蕉が創作した句です。松尾芭蕉は、『奥の細道』を書いたことでも有名ですね。教科書で習った人もいると思います。

この句は、「春の日、我が家の古池にかえるが飛び込み、ぼちゃんと小さな音を響かせたよ」という、単純な内容ですが、小さなかえるが池に飛び込む水の音が響き、聞こえるほど、周りの静けさがあることを表しています。また、水の音が響き渡った後の、ふたたび音が消え、もどった静けさも同時に表現されています。さらに、上五・五・七・五の一番上の五音の「古池や」は、切れ字の「や」を使って、そこで一呼吸おくことで、古池の姿が水面を静かにして広がっている情景を浮かべさせます。「水の音」を描きながら、むしろ、音のない静けさを表現しているところがこの句のすばいところですね。また、「春の日」と書きましたが、それは、「蛙」が春の季語だからです。つまり、この句は、「おだやかな春の日、静かな我が家で過ごしていると、静かだからか、我が家の古池にかえるが飛び込む、ぼちゃんという水の音が響き、聞こえてきたよ。音が消えたあとは、また静かな静かな世界に戻り、いっそ、静けさが広がり、感じられたよ。」という思いが読み取れます。江戸は現在の東京ですが、芭蕉が生きていたころの江戸は、まだまだこんな静かなところもあったんですね。

- ↑作者の紹介
- ↑簡単な内容(解釈)
- ↑句の中心(テーマ)
- \*描かれている内容
- ↑使われている修辭法とその効果
- ↑季語と季節
- ↑内容のまとめ

○解説のポイント(解説したいこと)

- ①句の簡単な解釈
  - ②句が描きだしている内容
  - ③特別な表現・修辭法とその効果
  - ④季語と季節
  - ⑤作者
- \*順序は問いませんが、一つ、二つ項目がなくてもかまいません。  
句の魅力、すばらしさを存分に語りましょう。

